2024年8月吉日

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°28　ドメーヌ・ボールナール

生産地方：ジュラ

新着ワイン6種類♪

VdF オー・フィル・デ・ジェネラシオン 2019（白）

ドメーヌを揺るがす危機的な状況など、特別な時にしかつくらないオー・フィル・デ・ジェネラシオン。エチケットはトニーの祖父の時のデザインを使用し、バックラベルは現在のボールナールの礎を築いた歴代の生産者の名前が記されている。2019年は、2017年同様に春の遅霜に遭った年。サヴァニャン以外の全ての区画の白ブドウを混ぜても 900L の収量しか取れなかった。だが、収量が少なかった分、ブドウはしっかりと熟した。醸造は 400L の新樽を使用。出来上がったワインはピュアで透明感がありながらもエキスがふくよかで、ミネラルの凝縮味とフィネスを感じるポテンシャルの高さが窺える！今飲んでもアタックが柔らかく飲みやすさはあるが、熟成に耐えるだけの土台がしっかりあるので、じっくり寝かせてもう一段上の景色も見てみたくなるワインだ！

VdF オー・フィル・デ・ジェネラシオン 2019（赤）

ドメーヌを揺るがす危機的な状況など、特別な時にしかつくらないオー・フィル・デ・ジェネラシオン 2019年は、2017年同様に春の遅霜による甚大な被害に遭った年。プルサールは80%の減収と危機的な状況にあった。ポワン・バールもラ・シャマードも1つのキュヴェとして仕込むにはあまりにも収量が少なかったため、全てのプルサールを混ぜオー・フィル・デ・ジェネラシオンとしてリリースすることにした。加えて、この年は歴史的な猛暑にも見舞われた年。収穫したブドウの潜在アルコール度数も高かったので、ブドウのフレッシュさを落とさないように熟成はステンレスタンクで行なった。出来上がったワインは、まるで当たり年のエレガントなラ・シャマードのような、官能的で中身のしっかりとした深い味わいに仕上がっている！これこそ薄ウマの真骨頂と言うべく、薄い色合いに反して旨味の凝縮感がハンパなく、飲みごたえ十分！今飲んでもエレガントで美味しいが、こちらも白同様に貴重なワインなので、せっかくならば余韻に残るタンニンが溶け込むまで後最低5年は寝かせて進化を見てみたい…そんなポテンシャルの高いワインだ！

VdF ル・ガルド・コー2020（赤）

2020年は、ドメーヌ史上かつてないほどブドウが早熟の年だった。トニー曰く、キャラクターは2019年に似ているが、超早熟でありながらも酸が落ちる前のタイミングでの収穫に成功したため、力強さがありながらも絶妙なバランスが取れたワインに仕上がった。ワインは2019年よりも味わいが少し硬いが長熟を予感させる力強さがあり、2019年同様にあと10年は軽く寝かせられるポテンシャルの高いワインだ！

VdF ル・ガルド・コー2019（赤）

2019 年は、ブドウが早熟で遅霜と猛暑に見舞われた年だった。トニー曰く、この年は収量が低くブドウにパワーがあったので飲み頃が来るまでカーヴで3年瓶熟させた。出来上がったワインはル・ガルド・コーらしい力強さと3年の熟成を経てこなれたタンニン、さらにアルコールに隠れていたミネラルが上がり、バランスの取れた飲みごたえのあるワインに仕上がっている！今飲んでも十分に美味しいが、これからさらに10年、20年は寝かせられる逸品だ！

AC アルボワ・ピュピラン ヴァン・ジョーヌ 2014（白）

2014 年のサヴァニャンは、春の長雨の影響で一部ブドウが寒さにより房が弦に戻ってしまい花が流れてしまった。また、スズキの猛威により気持ち早めに収穫したが、結果的に酸膜の張りの良い酸味がアクセントとなるヴァン・ジョーヌに仕上がった！トニー曰く、2014 年は涼しい年にもかかわらず熟成期間中暑い年が続いたことでワインの蒸発が早く、結果的に出来上がったワインはアルコール度数 15.5%を超える旨味のしっかりと乗ったフィネスある味わいに仕上がったとのこと！このまるでシャトー・シャロンのように洗練されたヴァン・ジョーヌにこそ少し熟成した旨味を感じるコンテチーズと合わせてみたい！

ヴァン・ド・ジョリクール 2018（酒精強化白）

2018 年はフィリップが醸造をトニーに譲り、トニーが 100%仕込むヴァン・ド・リクゥール。この年はシャルドネが早熟に加えかつてない大豊作の年だった。アルコール好きのトニーは、今回酒精強化で使うマールをドメーヌの赤白すべての品種を混ぜた蒸留酒を使用した。醸造は、いつも通りシャルドネのジュースを銅製の鍋で 2 日間煮詰め、その後自家製マール（蒸留酒）を加えて発酵を止め、樽で 4 年間アルコールの角が取れるまで熟成させた。出来上がったワインは濃厚で、アルコールと酸、適度な甘さのバランスが取れた絶妙な味わいが魅力的！数ある酒精強化でもここまでこだわったワインはそうそうない！

ミレジム情報　当主「トニー・ボールナール」のコメント

2014 年は、赤がショウジョウバエ「スズキ」の被害に遭った年。全体的にも厳しい年で、特に前半は雨が多く、寒さと雨に弱いサヴァニャンは一部花流れに遭った。8 月の中旬から天候が一気に回復し、 遅れていたブドウの成長にもアクセルがかかった！収穫直前まで暑い日が続きブドウも至極健全な状態にあったが、突然襲ったショウジョウバエのスズキの大群により、色のついた赤のブドウは集中的にやられた。一方、サヴァニャンはスズキの被害を恐れて早めに収穫したが、結果的には何も問題なくきれいなブドウを取り込むことができた。

2018 年は、ブドウが早熟で豊作に恵まれた当たり年！冬は雨が多く、2 月終わりには寒波がしっかりと降りたおかげで、ブドウの木の休眠もしっかりと取れた。また、寒さにより発芽が早まることがなく、春の遅霜の被害を免れた。4 月、5 月は気温が高く多雨で、ブドウの成長に勢いがつくと同時にミルデューが蔓延し始めた。だが、6 月に入ると、一転雨はピタリと止み、乾燥した日が収穫まで続いた。ミルデューの勢いはこの日照りにより静まり、また、開花が順調だったこともあり早くから豊作が期待された。夏は 7 月終わりに 40℃を超える猛暑が数日あった程度で、比較的気温は安定していた。途中水不足も心配されたが、冬春に降った雨のストックと、収穫直前に 20㎜ほどの雨が降り、その心配は全く無用だった。収穫は例年よりも 2 週間早く、2011 年以来の大豊作に恵まれた！

2019 年は、春の遅霜と歴史的な猛暑にあった年。冬のスタートは適度に雨が降り寒さもあった。4 月 15 日、これから芽吹きに勢いが出る矢先に霜が降り、これによりシャルドネ、プルサール、ピノノワールなど早熟のブドウはほぼ主芽が全滅、それからしばらくして 5 月 6 日、副芽が出始めるというタイミングで追い打ちをかけるように再び霜が降り、標高の低い畑は甚大な被害を負った。この霜の影響によりブドウの成長サイクルは大きく狂い、開花も足並みがそろわなかった。6 月中旬に入ると雨がぱたりと止み日照りが 10 月終わりまで続いた。また 6 月と 7 月の終わりには日中の気温が 40℃を超す歴史的な猛暑にも見舞われた。この猛暑と乾燥により一時ブドウの成長にブレーキがかかったが、収穫直前に雨が降ったことで、ブドウは息吹を取り戻しそこから一気に完熟に向かった。

2020 年は、2019 年に続く猛暑の年でブドウがかつてなく早熟だった年。冬のスタートは暖冬で雨も多かった。この暖冬によりブドウの萌芽は例年よりも 2 週間ほど早かった。4 月の頭に一時的に寒波が降りたが、霜の被害までには至らなかった。その後は、初夏のような暑さと適度な雨を繰り返し、ブドウの成長にもアクセルがかかった。開花も順調で例年よりも 2 週間早く、この時点で豊作が期待された。だが、7 月中旬からいつもよりも遅い予期せぬオイディオムが蔓延し、対策を講じていなかったため最終的に 3～5 割ほど減収となってしまった。8 月は連日の猛暑が続き、気温が 40℃近くまで上がる日もあった。だが、適度に雨が降ってくれたことと、また日中夜の気温の寒暖差が大きかったことで、ブドウが水不足に陥ることはなかった。収穫はかつてないほど早く、また猛暑だったにもかかわらず酸と糖のしっかりと乗った高品質なブドウを取り入れることができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

2022 年、2023 年と久々に収量に恵まれたジュラだが、2024 年はどうやらそうは行かなそうだ。4 月 24 日、25 日の明け方 2 日間に渡り気温がマイナスまで落ちる寒波がジュラ一帯を襲った。ニュースでも被害状況が取り上げられていたので、ボールナールの畑が心配になり 5 月の初めに状況を確認しに出かけた。

これはボールナールのサヴァニャン、レ・シャサーニュの畑。（写真①）芽がほとんど茶色く枯れている…。5 月の畑とは思えない殺伐とした光景に一瞬目を疑った。

今年のジュラは暖冬からのスタートだった。いつもは必ず降る雪も今年はほとんどなく、1 月から 3 月までで気温が 0 度を下回った日はわずかに 2 日しかなかった。ブドウの芽吹きも早く、４月初めには展葉が 3 ～4 枚まで成長する勢いだった。4 月は雨も多く中旬には初夏のように気温が上がり成長スピードが一気に上がろうとしていた矢先に霜に当たった。トニー曰く、今回ジュラを襲った霜は Gel Blanc と呼ばれる良く晴れた風の弱い時に起きる放射冷却が原因だったようだ。放射冷却とは、地表付近の熱が宇宙空間に逃げて気温が下がる現象で、冷たい風による霜 Gel Noir とは違い、気温 1 ～ 2 度でも湿気が畑内に滞れば明け方地表付近の熱が急速に奪われ霜が発生し、朝の太陽光によりブドウの芽が黒く焼け落ちてしまうのだそうだ。

（写真①）霜の被害に遭ったシャサーニュの畑

今回、レ・シャサーニュが被害に遭ったのは湿気の滞りやすい斜面の中腹から下までの部分。幸いにも風の通りの良い斜面の上の方は霜の影響なく芽もしっかり残っていた。だが、それでも被害は少なく見ても 6 割減は難くないだろう。「当時、天気予報は気温が下がるがマイナスまで下がる予報をしていなかったので少し安心していた。だが、翌日畑に向かうと茶色く枯れた芽が一面に広がる光景を目の当たりにしてかなりショックだった」と語るトニー。彼が言うには、特に被害が大きかったのはレ・ゴードレットのシャルドネとプルサールで、9 割以上の被害だったとのこと。これを聞いて個人的には、被害の大きいレ・シャサーニュもレ・ゴードレットも両方ともアルボワ・ピュピラン側ではなくコート・デュ・ジュラ側の畑であるということがとても興味深かった。アペラシオンの分け方も、きっと霜の被害の遭いやすさなどが関係しているに違いない。

ちなみに、これは去年 9 月終わりに撮ったシャサーニュ畑の収穫風景。（写真②）、（写真③）去年は豊作に恵まれ、収穫者も大勢参加して賑わっている場面を実際に見ているがゆえに今回の霜の試練は本当に胸が痛む…。

（写真②）2023 年のシャサーニュ畑の収穫風景

（写真③）豊作に恵まれたサヴァニャン

（2024.5.3.ドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ